

高校の〈生物〉教師に生徒は何を求めているか？

—〈生物〉教師を目指す学生諸君に考えてほしいこと—

What do Students Seek from the Biology Teacher?

生物科 浅羽 宏

<キーワード> 高校生物 教師 教育実習 生徒評価 授業評価 理解アンケート

1 はじめに

学芸大附属高校では、その本来の職務に従って、毎年多くの東京学芸大学の学生を教育実習生として受け入れている。また、本校卒業生の教育実習生も毎年十数名前後受け入れている。教員免許を取得しようとする学生達は、概ね前向きに教育実習に取り組んでいるが、その一方で多くの学生が様々な面での不安や危惧を抱えており、実習開始後も次のような感想がよく聞かれる。

「教えるべき内容を十分に勉強し、話し方や授業の進め方も考え、教材やプリントも用意して教壇に立った。ところが、生徒達が興味や関心をもってくれない、授業が自分の思うようにうまく進まない、一方的に話すばかりで上滑りしているような気がする」等々である。このような感想を、毎時間の授業後の反省会で述べる学生達は、それなりに真面目に実習に取り組んでいるのであり、めきめきと実力を伸ばしていく学生も多い。その反面で、感想や反省を自分の言葉でろくに述べることができない学生も目立ち、それはまた根本的な別の問題をはらんでいる。

大学で開始された様々な授業改革や授業改善の研究は多くの著作や研究として発表され、施行されている^{①②}。それらの流れを受け、高等学校でも授業改善のさまざまな取り組みが行われており、生徒による授業評価も実施され、組織的に取り組まれるようになってきた^{③④⑤}。

ところが、高校生達が日々の授業や実験などに関して、教師にどのようなことを望んでいるか、という観点で、教科の特性に沿った具体的なアンケートをとった研究は少ないようである。ここでは筆者の担当科目である生物を取り上げているが、科目名を他の教科・科目等に置き換えてみれば、いろいろな応用や発展もあり得るように考えられる。その点において、現在の高校生の考え方や感じ方について、何らかの傾向や特色を見いだすことができれば、これから教師を目指す理科以外の学生諸君にとっても、一つの方向性や示唆を提示することができるのではないかと考え、本稿をまとめることにした。

2 研究の方法

(1) 調査項目の選定

本校の高校生が生物の授業を受ける際に、本職の教師や教育実習生に対してどんなことを求めているか、ということを考え、以下のようないくつかの項目を選定した。

まず、生物の教師として高等学校の教壇に立つためには、科学一般の学問的な背景を十分に持った上で、生物学的な知識や理解がしっかりしているのは当然であろう。さらに、高等学校以降の進路や進学についての展望を持っていることとか、今日その授業が将来どんなところに結びつくか、という見通しや展望なども大切と考えた。

学校という現場に日々勤めていると、生物の教師として、動植物に関する知識や飼育法、時には調理方法などに関してよく尋ねられる。各方面から、生死を問わず様々な生き物が持ち込まれ、その名前や生態、処理の方法などを尋ねられることも多い。このような点は、他教科にない特色と思われる。

さらに、理科教師であれば、授業の進行と不可分の関係にある実験の面白さを伝える上で、本人の実験技術上の技能や知識なども、当然のように必要とされるだろう。新たな知識や技術の獲得も求められよう。

また、話し方や授業の進め方などに関しての技術も、ないよりはある方がよいであろう。話に緩急がなく、盛り上がり欠く授業を展開しているようなときには、聞く側の集中力や意識が遠のいていくのがはっきりとわかる。生徒を前に引きつける話術や手段、実物の呈示なども必要であろう。

さらに、教師としての仕事以外に、個人的な研究や執筆などを行っている研究者的な側面や、地域社会を構成する一般人としての様々な活動なども、高校生達が教師に必要な資質として考えられそうである。

以上のようなことを考慮して、以下の(3)に示すような16項目を選定した。そのうちから、必要と思われる項目を5つ選んで○をつけてもらうことにした。

(2) アンケートの実施方法

附属高校生の1年生のクラスを4年間にわたり、毎年連続して合計13クラスでホームルーム単位での調査を行った。また、3年生の選択生物のクラス(理系及び文系)を2年間にわたり、合計6クラスで調査を行った。それぞれのクラスでは、(3)に示したアンケートを1年間の授業最終日(52期生、53期生、54期生)および、1学期の答案返却日(55期生のみ)に配布して回答をするように指示し、その場で回収した。

1年生については、2005年入学の52期生ABC組3クラスの計131名の集計結果を(A)のグラフに、2006年入学の53期生ABCEH組5クラスの計206名の集計結果を(B)のグラフに、2007年入学のFGH組3クラスの計119名の集計結果を(C)のグラフに、2008年入学のFH組2クラスの計92名の集計結果を(D)のグラフにそれぞれまとめた。

3年生については、2004年入学の51期生の生物選択者理系2クラスの集計結果を(E)のグラフに、2005年入学の52期生の生物選択者文系2クラスの集計結果を(F)、理系2クラスの集計結果を(G)のグラフにまとめた。

本学の教育実習生については、2007年度の生物科の教育実習生には、6月のオリエンテーションの日に調査を行った。2008年度の生物科教育実習生には、実習最終日に調査を行い、2年間分の合計27名分のデータを(H)のグラフにまとめた。

以上の調査集団を一覧表にまとめると次のようになる。

集団名	クラスの構成	集計結果の記号	調査した人数(人)	入学した年
51期生	3年生選択理系2クラス	E	32	2004
52期生	1年生HR3クラス	A	131	2005
	3年生選択文系2クラス	F	44	
	3年生選択理系2クラス	G	36	
53期生	1年生HR5クラス	B	206	2006
54期生	1年生HR3クラス	C	119	2007
55期生	1年生HR2クラス	D	92	2008
教育実習生	2007年、2008年生物科教育実習生(3年生および4年生)	H	27	3年生及び4年生

(3) 生徒へのアンケート

生徒に配布して調査したアンケートは、次のようなものである。

『あなたは、高校の生物教師にどのようなものを求めていますか。大切だと考えられることがらを次の中から5つ選んでください。

- 1 高等学校の生物分野全般への理解と知識が十分にある
- 2 授業のもとになる基礎的な学問・知識が確かであり、それらの向上を常に図っている
- 3 実験観察の経験が豊富で、技術の習得にも熱心である
- 4 生物学応用分野への理解と知識があり、将来への展望をもっている
- 5 毎日の授業がどこに結びつくかを視野に入れている(学問的、実用的、応用的)
- 6 基礎医学的な内容や現代的な内容を理解している(BSE、AIDS、プリオン、アレルギーなど)
- 7 病気や障害をもつ生徒への共感と理解がある
- 8 生物の分類・同定、標本制作、飼育栽培、潜水、採集、食用化等の技術がある
- 9 種々の生物に関する知識が豊かである(ほ乳類、鳥、昆虫、シダ、コケ、草本、樹木等の全般について)
- 10 個人的専門分野(生物学等)での研究活動や執筆、著作などを継続している
- 11 生物に関する受験知識、受験問題解法、進路指導の経験が豊かである
- 12 受験その他で生物を選択した生徒へ、いろいろなメリットを示すことができる
- 13 医学、薬学、農学、バイオ、看護医療系への進学指導とその後の就職への見通しをもつ
- 14 話し方に技術があり、面白い身近な話題を提供し、聞き手の理解を確認しながら話すこと
- 15 伝えたいこと、重要なことが明らかで、学問的な広がりや位置付けの中で話す
- 16 社会的な活動や学校外の活動(芸術、スポーツ、文化、地域活動等)において現役である』

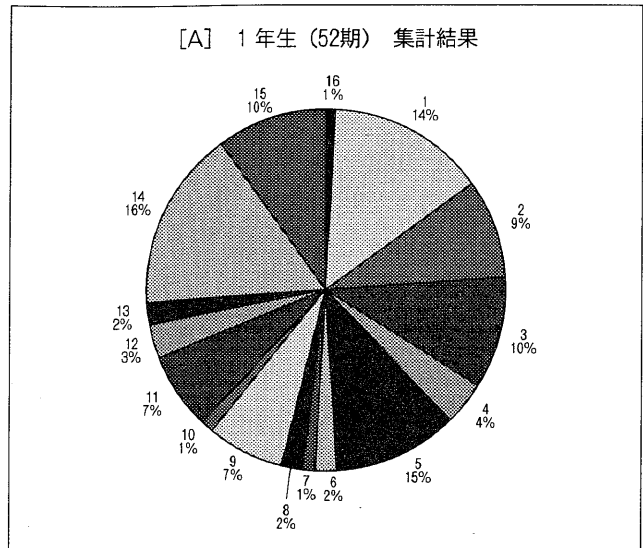
さらに、55期生の生徒達には、上記の項目に関してのアンケートを実施した上に「以上の他に、高校の生物教師にあなたが必要だと思うことがらを記入して下さい。」という項目を追加して、自由に記入してもらった。

3 集計の結果

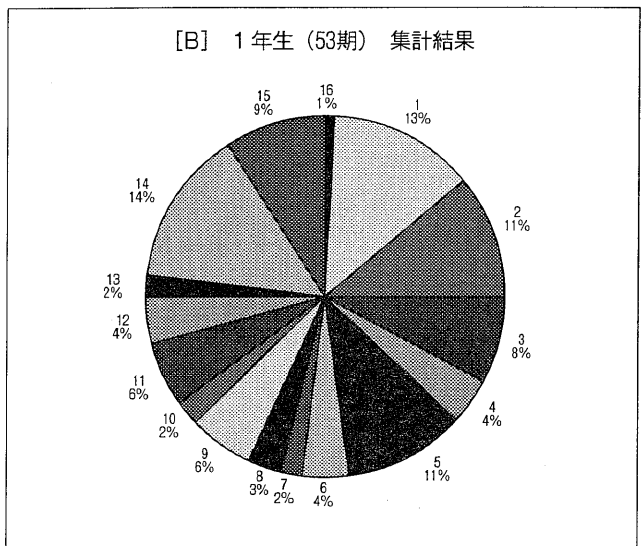
生徒個人のアンケート用紙を集計して、各項目に○をつけた者が何人になるか、その数を集団ごとに数えた。それらの集計結果は、以下の(1)から(8)に示すように、円グラフとして表示した。グラフ内の数字の1～16は、上記のアンケートの調査項目1～16に対応している。グラフ内の項目を示す数字の横に表示したパーセントの値は、集団内の回答総数に占める各項目の集計数の占める割合である。これらの中には複数回答が含まれている。

調査集団の人数は27人から206人までの幅があるが、結果のまとめはすべて実際の数ではなく、上記に述べたパーセントで表示した。

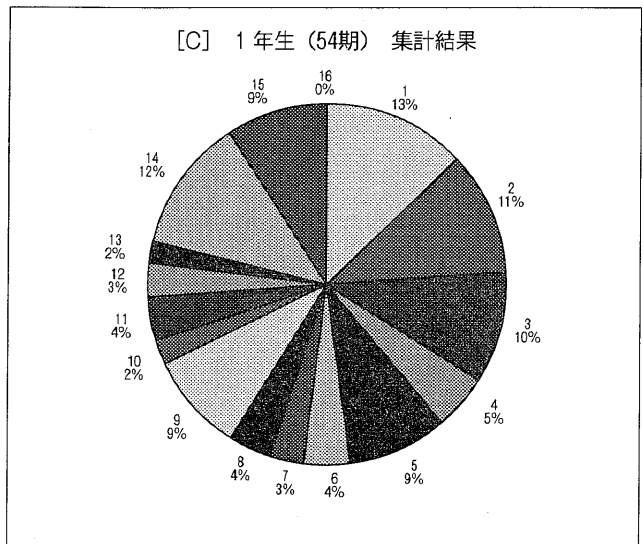
(1) 1年生、52期



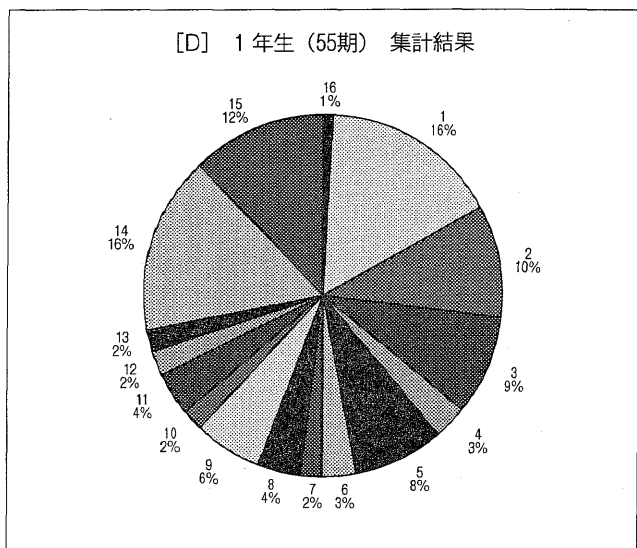
(2) 1年生、53期



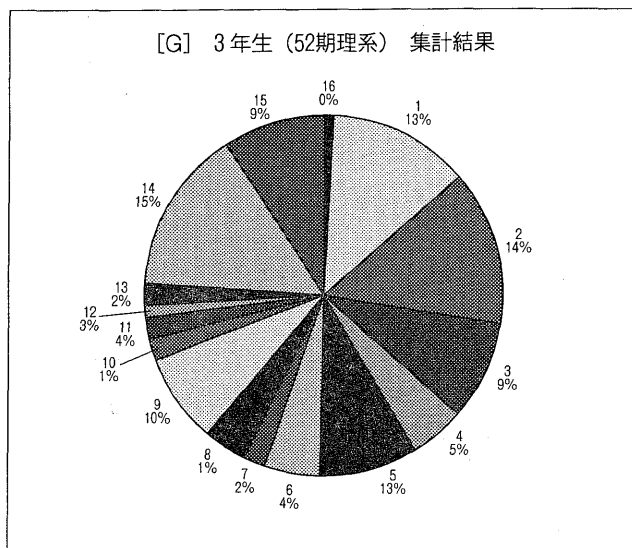
(3) 1年生、54期



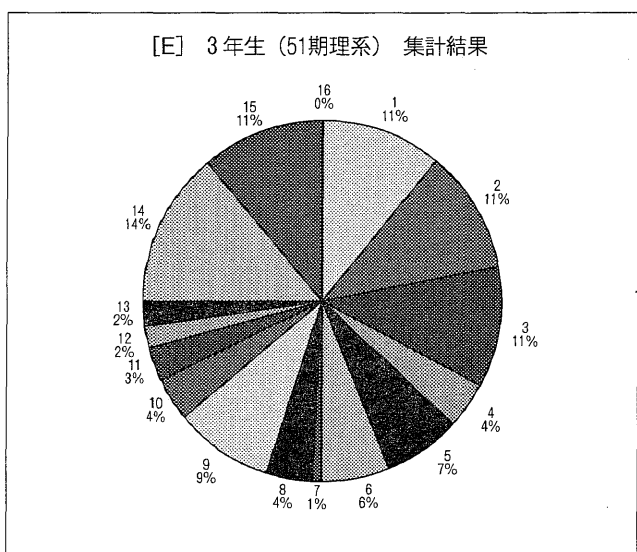
(4) 1年生、55期



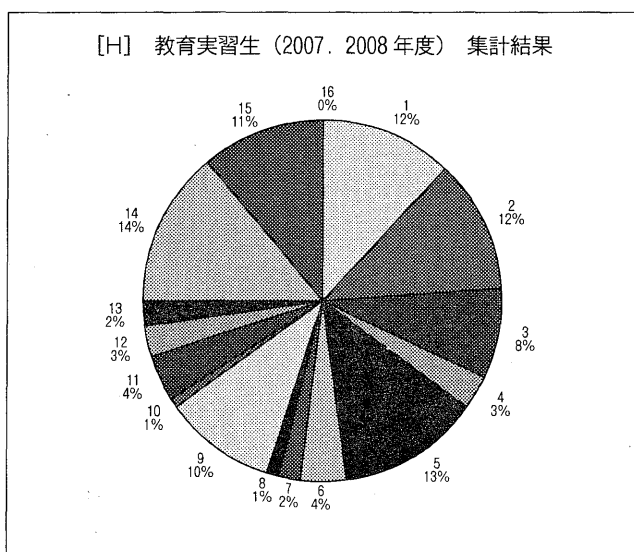
(7) 3年生、52期理系



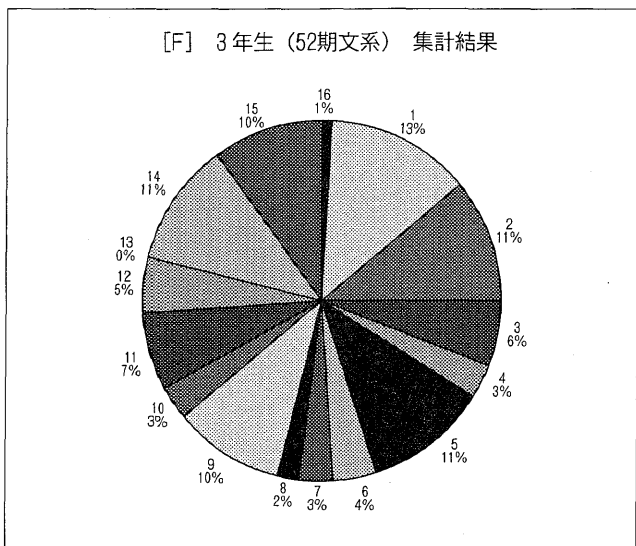
(5) 3年生、51期理系



(8) 教育実習生



(6) 3年生、52期文系



4 考察

(1) 上位に位置した項目

調査した複数の集団のどこでも、第1位になった項目は第14番で、各集団での回答総数の14%から16%を占めている。それは、「話し方に技術があり、面白い身近な話題を提供し、聞き手の理解を確認しながら話す」であった。この調査を始めてから5年間、学年も異なり、必修クラスと選択生物という集団も異なっているが、この項目はいつも第1位にあり、現代の高校生の気質を代表しているかもしれない。

調査を始めた頃は、筆者はこの結果があまり信じられず、あるクラスだけの特徴ではないかと考えたこともあったが、どうもそうではないようである。学問的な内

容以前に、このような生徒への話し方の技術や接し方、授業を進めていく上での態度のようなものが、高校生達にとって最も必要と思われる。一方的にならないようにいろいろと工夫し、内容的にも面白くして、様子を配慮しながら授業を進めてほしいということであろうか。我々古い世代が受けてきた頃の授業とは、だいぶ様相が異なっているように思えるが、どうなのだろうか。他教科で調べたわけではないが、教科の内容は問わず、このような項目が常に重要視されるという傾向は、かなり強いのではないかと想像される。

第2位も各集団ではほぼ変わらず、11%から13%を占めている。その項目は第1番の「高等学校の生物分野全般への理解と知識が十分にある」であった。この結果は実に妥当であり、健全な良識を反映している当然の結果のように思われる。第1番にこれをもってきた理由も、多数の支持が集まる項目という予想があったためである。「生物」を他の教科・科目に置き換えてみると、当然の結果であるといえよう。このあたりが、本校生徒の一般的な良識や常識を示していると考えられる。

以上の結果から考えられるのは以下のようなことである。教師に高校生物の内容を教えるに足る十分な理解と知識があるのは当然であるが、同時に授業を行なう際には話し方を工夫し、生物学の基礎を踏まえながらもアカデミズムの中だけに留まらず、身近な例や具体的な事例を引いてそれを解説し、なおかつ一方的でなく生徒の方を向いて、その反応や理解を確認しながら進めていくということであろうか。

第3位は多少の変動があり、8%から11%くらいを占めており、2番、3番、5番あたりが該当する。2番は「授業のもとになる基礎的な学問・知識が確かであり、それらの向上を常に図っている」、3番は「実験観察の経験が豊富で、技術の習得にも熱心である」、5番は「毎日の授業がどこに結びつくかを視野に入れている（学問的、実用的、応用的）」である。これらは、教科の内容等に関する不断の向上心や、継続的な勉学への意欲、学問的な裏付けのある見通しや広い視野などが、我々教師に求められているということである。自分たちが毎日教わる教師に、高校生達はやはり努力や向上心、前向きの意欲を求めたいということであろう。学校という組織は、以上のような努力や意欲を具体的な目標とし、最大限それに向かって邁進するように、ことあるごとに生徒達に仕向けるようなところがある。そのような意味では、日々の教育活動の成果が見事に生徒達に現れ、それが我々教師にも向けられているということであろう。

(2) 下位に位置した項目

得票があまり集まらなかった項目をみると、16番が0%から1%で最も少なかった。それは、「社会的な活動や学校外の活動（芸術、スポーツ、文化、地域活動等）において現役である」である。次に少なかったのは7番の「病気や障害をもつ生徒への共感と理解がある」で、1~3%である。さらに、10番「個人的専門分野（生物学等）での研究活動や執筆、著作などを継続している」は1~4%であり、12番「受験その他で生物を選択した生徒へ、いろいろなメリットを示すことができる」なども1~4%であり、これらは極端に少なかった。

アンケートの目的は、高校生の求めている生物教師にはどのような条件や資質が必要とされるか、を調べることにあるが、生徒達は生物以外の活躍？に関してはほとんど期待しておらず、教師の個人研究などにもあまり評価は高くなく、受験教育に徹することも求めている、もしくは始めから期待していないようである。

生物に限らず、個人的に地道な研究活動や執筆活動などを進めておられる高校の教員は、昔も今もかなりいらっしゃるのではないと思われる。しかし、そのような活動は本校生にはあまり評価されておらず、残念なことである。下記の自由記述の中でも、「研究以前に教師であることを忘れないでほしい」、といったものがあり、そのあたりが生徒の感覚を表しているのかもしれない。教師の研究が目に見えるような形で授業にフィードバックされていれば、高校生達の違う評価があるようにも思われる。

また、教師であっても、一歩学校から外へ出れば普通の社会人であり、好むと好まざるとに関わらず、さまざまな活動をしていかなければならない。地域の町内会役員とか、自分の子供の学校の役員、マンションの理事とかいった様々な役職や係をお勤めの方も多い。個人的なボランティア活動などに精を出されている方もいよう。それらに関する生徒の評価がほとんどないのは、附属高校生が地域社会の中での役割りをまだほとんど果たしていない、ということが関係しているように思われる。もしくは、果たすべき義務や仕事を親や家族により肩代わりされていて、勉強と部活だけやっていればよいという恵まれた高校生活を送っている、ということを反映しているであろう。そのような意味では、本校生徒は良く言われる「温室育ちである」のかもしれない。

町内会やマンションの大掃除や下水掃除、草むしりなどの一寸した社会貢献を、日頃行なっているような高校生であれば、登下校時のトラブルで地元住民から訴えら

れるような不始末はあまり仕出かさないようになるのではないかとも思う。

(3) 学年の進行に伴う集計結果の変動

52期生という集団への調査を、1年生時と3年生時とで行なった結果を比較する。1年時はクラス集団であるが、3年時は生物選択者なので、生物への興味関心や志向が異なることは十分に考えられる。

大きな変化は次のようなものである。項目の2番は1年時の9%から、3年文系で11%、理系で14%へと大きく増加した。6番は得票率こそ少ないが、1年時の2%が文系4%、理系5%へと大きく増加した。8番も少ないが、1年時及び文系の2%が理系では4%と倍増した。11番は1年と文系が7%で等しく、理系は2%へ激減した。14番は16%から文系は11%に減少した。

以上の結果から、1年時に比べて3年生物選択者では次のように変わってきたといえよう。3年文系では教師の実験経験の増加や、話し方のうまさなどより、学問的な理解や知識の向上、生き物に関する知識などがより重要と考えられている。3年理系では、教師に学問的な内容と理解を求める比率がより大きくなり、医学的な内容も求められ、生き物の取扱い技術やさまざまな知識も必要であるが、受験技術を教わることは求めていない、といったところであろうか。

(4) 教育実習生へのアンケート結果

本校へ教育実習に来る大学生に、同じアンケートを実施してみたところ、見事なほどに現役高校生と同じような傾向を示していることがわかった。実習生は大学3年生が主体で、高校3年生とは3～4歳しか違わないので当然な点があるかもしれない。しかし、大学で日々研究活動に接している中で、もう少しアカデミックな項目が増えたり、幅広い目を養ってきた経験の中で、社会的な役割りを重視するような項目が増えるのではないかと予想していたが、そうではなかった。

それまで大学生であったが、初めて授業を行う教育実習生と、それを聞く立場の高校生とが、生物の教師に望むことや、こうあるべき教師の条件がほとんど同じということは、きわめて興味深いことである。学生達には、自分がどうすれば良いかということが、よく分っていることになる。それにもかかわらず、教育実習で授業がうまくいかないという反省が多く聞かれるということは、何故であろうか。

こうすべきだ、ということが分っていても体が動かず、頭や口がついていかない、ということだとすれば、授業そのものへの取り組み方の意識と意欲とをもう少し高め

るような指導が、大学側にもそして受け入れ側にも必要とされているのであろう。

下記の6で述べられている自由記述の文を読んでみると、実習生諸君はそれぞれに、あるべき姿の理想像をともに考えていることが読み取れる。あとはそれをどのように具体化するか、という課題が残っている。

5 生徒による自由記述について

上記の調査項目以外に、あなたが高校の生物教師に必要なと思うことはどんなことですか、という記述を1年生(55期生)2クラスに自由に書いてもらったものが以下である。便宜上、《 》内に記したキーワードを中心に

して、いくつかの項目にまとめた。90人近い生徒が多くのことを書いてくれたので、基本的にそのまますべてあげた。以下では、斜線(/)の区切りが一人分の記述を示す。

A《楽しさ、面白さ、分りやすさ》

広く深い知識と面白さ/わかりやすい話があれば、知識がなくてもよい/生徒が授業を面白く興味をもって受けられるようにしてほしい、受験のための勉強じゃなくて本当に面白いから勉強したい/生物は楽しいと思えるような授業がよい/楽しい授業を受けたい。知識をただ板書するだけでなく、楽しく話を交えながら授業をしてくれる/ただ知識をもつだけでなく、実生活にその知識を生かす力が必要。その力を学べる授業を望む/分りやすい授業の展開。授業の途中で内容に関連あることで、雑学のようなものを話に含めると興味がわきます/生物の授業を理解させるか、学問に興味をもたせる力があれば情熱0でもOK。熱が入っていても意味が不明ならばいやだ/楽しい授業、分りやすい授業ができるのはやはり自らが生物の授業を楽しんでいる先生だと思うので、生物が本当に好きということが大切だと思う/身近なものごとを例にして説明できる力。実験方法を分りやすく説明できる力。テンポよく進められる力。授業が分りやすく、面白く教えてくれる/眠くならないような楽しい授業

B《授業の技術、板書、話術、絵》

インパクトのある授業/巧みな話術/生徒への丁寧な指導/絵心/字がきれい/絵がうまいこと/実習を多く/性格がよいこと/板書がきれいなこと/わかりやすい言葉で話す/黒板の字がきれいで見やすくわかりやすいこと。質問に答えられること/黒板の字がきれいで見やすい/14番の話し方に技術がある、は必須です。これが教師の真髄です/生徒を授業に引き込む力、ノートの

とりやすい板書の仕方／生徒を授業に引き込む魅力／授業中でも生徒が考察するための時間が必要／知識が豊富なことはもちろん必要ですが、それを面白く分りやすく、生徒の興味を引くようにして授業をしてくれること／眠くならないような授業を展開できる能力、授業内で理解させ家庭学習を多く必要とさせない能力／みんなが参加できる授業をすること／生物に興味のない生徒の頭の中にも残るような印象的な話題を提供してくれる／附属生だからこそ聞けるような興味深い話をたくさんする。教科書だけでなくもっと発展した専門的な話もする／毎回の授業がワンパターンでなく面白い。教室のどこにでも話が通り単調に話さない／教科書通りに説明されても分らないことが多いので、いかにわかりやすくイメージできるかが大切／生物の知識はただの丸覚えでは本当に身に付いていない、必要な知識を分りやすく理解させる技術が必要。

C《意欲、やる気、情熱》

やる気が大事。私達を引きこませるような話術、授業の展開などの魅力／学問に対する情熱、常に自分の周囲に見られる生物を意識すること／情熱／やる気／眠くならないような話し方／高校の勉強はかなり専門的、それを支えるのは自分の興味、好奇心、熱意。それのない実習生はこないでほしい。迷惑だ。／私生活の中で見られる身近なことを教えてほしい

D《発展性、専門性》

十分に準備をして授業に望んでほしい／授業より一歩踏み込んだ内容を知りたい時があるので、発展的な質問に答えられるようにしてほしい／知識が豊富だけでなく、実験のときに適確な指示を出してくれること／生徒に興味をもたせる話し方をし、生徒を生物好きにできることが最も大切。

E《ユーモア、人柄》

ユーモアがある／相手を思いやる心、広い心／個人的である、ゴキブリその他の虫が出てても対処できる、命の大切さを知っていて殺生しない人／熱血さ／ユーモア、根性／広い視野／魅力的な人柄／親しみやすさ、質問などへ行きたくなる雰囲気。

F《自信》

堂々と自信を持って多くのことを教えてくれる先生を望む／自信を持って授業をすること。質問には詳しくより分りやすくこたえること。知識がどう関連しているか教えてくれること。

G《日常生活の知識、実用性》

受験に必要な知識だけでなく、日常で使えるようなこ

とも教えてほしい。実際にタイサンボクなど見ると楽しい／知識と生活とを結びつけられるような理解を得られる授業／眠くならないくらい面白いこと。すぐに実践できるような実験や観察があること（酢タマゴ、クチナシ）／例えばゴキブリが教室に来たら洗剤でゴキブリは死ぬが水では死なないなど面白い話をして、生物に興味を持てる内容を話す／教科書を説明するだけでなく、生物分野においてオタクであること。先生自身が眼を輝かせて語っている授業は楽しい。

H《身近な生き物、動物、植物》

附属高校に生息する生物に関する知識／何でも知っていること。目の前にある植物、虫、動物の名前や特徴を何でも言える知識／生徒に生物の素晴らしさを伝えようとし、興味をもたせる話をする技術／先生自身が生物全般に興味一杯なこと／研究などをしていても、本業は教師であり、授業を一番にしている／刺激伝導系と心筋については知っておくべき／生物が好きであること／植物や動物の話をはさんでくれたりの方が楽しく授業が受けられる

I《生徒への思いやり、理解》

生徒がどの程度理解しているかわかっていること。生徒がどんな人物であるかを知ること大切／生徒への思いやりがある。生徒の意見、質問に熱心に答えられる／生徒がどの程度理解しているかわかっていること／ただ教科書に載っていることを行うのではなく、それを自分のものに換えて授業を提供してほしいと思う／体験談を多く聞けると楽しい／生徒が疑問に思ったことに対して、分りやすく説明できる。また、授業が面白い／命の大切さに関する熱意のある話が必要では／優しく面白い。えらぶっていないけど、尊敬されるような感じ／授業外でも質問や発展的な話に協力してくれること／生物を苦手としている生徒も生物に関心を持ってより理解を深めたいと思わせるような授業を展開する力。

J《受験》

実験や観察だけでなく受験を意識した内容も関連させながら教えられる力が必要／生物の受験知識、受験問題解法、進路指導の経験が豊かな方がよい。／受験勉強向けの知識に偏らず生物の面白さを伝えてくれること

生徒達のコメントは中々当を得ていることが多い。様々な点に関して鋭く本質をついている意見も多く、とても参考になる。上記のAはアンケートの14番や15番に関連が深い。また、BやCの項目は多分に技術的なことが多いが、生徒に授業を行う実習生諸君に考えてほしい内容を多く含んでいる。Dは3番や4番あたりに

関係がある。G・Hは8番と9番に関係が深い。Iの項目は、あまりに当然のこととして、今回のアンケート調査項目には入っていないので、生徒達はよく気がついて記入してくれたと思う。Jの項目は12番そのものである。

6 教育実習生による自由記述

上記のアンケート項目以外に、あなたが高校の生物教師に必要と思うことはどんなことですか、という記述を2007年と2008年の教育実習生に自由に書いてもらったものが以下である。5と同様のキーワードを中心にまとめてみた。

A《楽しさ、面白さ、分りやすさ》

生物分野がすきであること、楽しさや面白さを伝えようと努力すること／生物学が面白いと思わせられる教師／生物学が大好きである／実験が多いこと

B《授業の技術、板書、話術、絵》

知的好奇心、興味をわかせる情報の提供／生物が好きになるような授業／知識を伝えるだけでなく現代的な話題と絡めて生物学への興味を引き立てる内容／黒板にささっと図を描きながらわかりやすく説明できること

C《意欲、やる気、情熱》

よい教師になろうとする熱意や向上心、自分なりの理想の教師／生物や科学を好きになってもらおうという気持ちや取り組み／教師自身が本当に伝えたいと思うこと

D《発展性、専門性》

文系も含めた広い知識と興味／最新の生物学や生命科学の話題を熟知

E《ユーモア、人柄》なし

F《自信》

生物を含めたさまざまなことがらに冷静に科学的に観察分析考察ができる

G《日常生活の知識、実用性》

知識と現実を結べるような実力／生物以外の科学分野の知識を幅広くもつ

H《身近な生き物、動物、植物》

周囲の動植物に説明できるような実践的な知識／人体、動物、地域の動植物など身近なものを話題にする

I《生徒への思いやり、理解》

生徒と会話しながら授業を進められる教師／学問を単純化するだけでなくかかわり合いの中から複雑化して考える。そこに生徒をどのように興味をもたせるかが必要。

7 あとがき

32年も高校で生物の授業を続けてきて、この頃ふと思ったことがある。「この生徒たちは、私の授業を聴いていて面白いのだろうか、どんな気分で1時間過ごしているのだろうか」と。また、それと同じような視点を実習生諸君にも持ってほしいと思った。実習生には、つまらないじゃれでなく、教室に笑いが出てくるようなゆとりある授業を目指せ、などと言いつつ続けてきた。そこで、生徒達が少しでも面白かったという気分を持って授業を終えるためには、生徒達が何を求めているかを考えてみることは、実習中であっても大切なのではないかと考えるようになった。その具体的方法の一つとして、今回の試みを行なってみた。高校生が我々教師に何を求めているのだろうか？という正解のない問いかけに、多少なりとも示唆が与えられたように思えるのは、思い過ぎだろうか。皆様のご批判やご意見を承ることができれば幸いである。

8 参考文献

- ①大山泰宏：「授業評価の理論と実践」第4回スクールリーダーフォーラム授業評価の理論・政策・実践、大阪府教育委員会・大阪教育大学合同プロジェクト2004年。
- ②深川八郎：授業改善の評価と方法－授業評価の事例的分析研究－、日本教育新聞社2008年
- ③大阪市教育センター：児童生徒にとって「わかる」「楽しい」をめざした授業デザイン、大阪市教育センター研究紀要第178号、2007年
- ④東京都教育委員会：「生徒による授業評価を生かした授業改善を目指して」－「いい授業しようよ」生徒による授業評価開発委員会報告書－2004年
- ⑤東京都教育委員会：全都立高校における『生徒による授業評価』の実施について、東京都教育庁高等学校教育指導課
(<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press>)